



No.116 2011. 12

発行 真言宗豊山派
北田山宝泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真琴

法然と親鸞

国立博物館

秋もたけなわ11月初旬、上野国立博物館で開催の「法然と親鸞 ゆかりの名宝」展をじっくりと鑑賞してきました。今年は両上人、八百回忌、七百五十回忌の記念の年で、夏に開催されていた「空海と密教美術展」について仏教に関する大型企画を観覧することができました。鎌倉新仏教と真言密教の巨星の両者、約400年の時の経過があります。

今回展示室に入って辺りを見回すと、一見して二つの違いの大きさがわかりました。法然、親鸞の浄土教では阿弥陀様への専修念仏を説き一心に念仏を唱えることこそが第一、としていることからか、展示物は仏具や仏像は少なく書画の掛け軸や文書(もんじょ)類が多いものでした。一方、密教では仏の世界を説くには人間の五感に響くようにと、伝統的に仏像、仏具、彫刻、書画、音、香りなどを必要としています。したがって密教美術展での展示は多種多様、しかも誰にも興味を抱かせるものが膨大な数にのぼっていました。

文書類も浄土教と密教とでは大きな違いがあります。法然や親鸞の文章の内容は深いものでも表現は平易でしかもひらがな、カタカナまでが使われていて親しみさえ感じさせ、当時の一般民衆に圧倒的に受け入れられたのもうなずけます。それに比べるとお大師様の文章は漢籍の引用やたとえが縦横無尽に使われて、注釈書でさえ難しさを感じさせます。四百年という時の隔たりも大きく、新しい仏教は旧仏教の反省にたって興ったすれば当たり前のことなのかもしれません。

今から四百年前といえば江戸時代初期のこと、平安、鎌倉時代の四百年と現在の四百年は比較のしようもないのですが、これからの四百年後、今の時代がどのように伝えられていくのかと思うと歴史の壮大さを感じた展覧でした。(琴)

元旦 お経の会

午前0時、午前9時 寶泉寺、本堂
持ち物 数珠、あれば輪袈裟(わけさ)

新年のお勤めと、顔合わせです。もしも元旦にお墓参りにお出でであれば、この時間にあわせて参加しませんか。近年、お勤めの後に集合写真を撮っています。いわば定点撮影、あとあとが楽しみです。

常楽会 in 松山

お釈迦様にまつわる行事といえば、誕生を祝う4月8日の「はなまつり」や、入滅(亡くなること)を悼む2月15日の「涅槃会(ねはんえ)」が良く知られていますが、もう一つ大切な行事に、お釈迦様が悟りを得られた日である12月8日を祝う「成道会(じょうどうえ)」またの名を「常楽会(じょうらくえ)」というものがあります。「はなまつり」などと比べると一般的ではなく、また、実際の法要も僧侶だけでひっそりと行われることが多い、そんな行事です。

12月15日。学生時代の先輩の呼びかけで愛媛は松山のお寺で、大学時代共に学んだ仲間13人とこの常楽会を厳修して参りました。約2時間、僧侶だけの本堂で普段ほとんど用いることのない声明(節のついたお経)を唱え、お釈迦様の遺徳を偲びます。

外は晴れ渡った松山の地。ピンとはりつめた冬の気。厳かなお堂のなかで学生時代、仲間とともに近所の施設を回り、お年寄りの前で声明をお唱えしていたことを思い出しました。

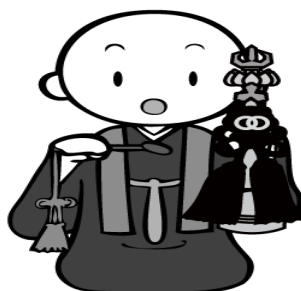
常楽会の「常楽」はお釈迦様の特徴を示す「常楽我浄」という四字熟語からきています。「常」は、ころころ移り変わる(無常)私たちに対し、普遍不滅の性格を表します。「楽」は苦しみが全てなくなった状態。「我」はおぼろげな存在である衆生に対し絶対的な存在であることを表し、「浄」はあらゆる執着から解き

放たれ清浄であることを示しています。

まさに私たちとは全く反対の存在。それが、お釈迦様です。ただ、そんな存在になられたお釈迦様だってもとは執着にとらわれた人間でした。すぐにその境地にはたどりつけなくとも、一步一步「常楽我浄」を目指し前に進んでいくことが大切なのかもしれません。

どちらかといえば苦しいことの多かった本年ですが、お釈迦様が少しずつ悟りに向かって歩まれていったように、来年が皆様にとって前進の年になりますように。(了)

ご詠歌はじめます!!



ご詠歌とは、仏さまの教えをやさしく説いたものを歌詞にした民謡調の仏教賛歌のこと。今まで何度かお伝えしてきたように、このご詠歌を皆で歌う会を始めたいと思います。お相手は副住職がつとめます。

最初は簡単な曲を少しずつ。慣れてきたら鈴鉦(れいしょう)という楽器(絵参照)を使いながらと考えています。

日時は来年の4月から月2回。会費はお茶代を入れて一回500円程度。曜日や時間は現在思案中ですのでもう少しお待ちください。3月のお彼岸前の「るり光」で正式な通知をいたします。

歌うのが好きな方。仏さまの教えに触れたい方。お茶を飲みながらワイワイやりたい方。どなたでもふるってご参加ください。質問がある方は、いつでも受け付けていますのでお電話でも、直接でも結構です。お気軽にお問い合わせください。

【震災被災者追悼塔婆寄付報告】

寶泉寺では3月の大震災以来、追悼と復興を目的としてお塔婆供養をお受けしています。お塔婆は毎月11日の追善供養のあと、1基1000円のお布施は赤十字を通して被災地へ送っています。現在までに上がった塔婆は44本(寄付額44000円)。ひとまず来年3月まではこのまま続けていく予定ですので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

年 回 表

平成 2 4 年



一 周 忌	平成 2 3 年
三 回 忌	平成 2 2 年
七 回 忌	平成 1 8 年
十三回 忌	平成 1 2 年
十七回 忌	平成 8 年
二十三回 忌	平成 2 年
二十七回 忌	昭和 6 1 年
三十三回 忌	昭和 5 5 年

年回表に命日を照らし合わせるとき、
ぜひ他の仏様の命日もあわせてご確
認下さい。こちらも確認に努めます。
ご近所やお知り合いなどの仏事のご
相談などもお受けしております。



頭 上 落 雪 注 意



特に本堂の周囲、それに墓地に至るスロープ、墓参などの折には屋根
からの落雪にご注意願います。

寶泉寺駐車場

この数年来、近辺の道路事情がかわり寶泉寺前の道路の通行量がとて
も多くなりました。それにつれて道路沿いの駐車場の車の出入りにはよ
ほどの注意が必要となっています。

普段はどうぞ塀の内側の駐車場をお使い下さい。

車での御来山はくれぐれもご注意の程をお願い致します。

編 集 後 記

・大震災を初めとして災害の多い年でした。
ボランティアへの求めは大きい、まとめて時
間がとれず一回しか行けなかった。来年は何と
か時間を都合したいと思っている。
・法然・親鸞展。五木寛之の「親鸞」を事前に読
んでおいた。上人や当時の世相が生き生きと
描かれていて興味深く理解も深まる。そして
今、丹羽文雄の「親鸞」を読んでいるが、これが

発行は30年前、大作で字が小さく大変、老眼
でドライアイの小僧にはちょっとつらい。
・近くて遠い国、北朝鮮で指導者が替わる。さ
てこの国はどうなっていくのだろうか、特に拉
致問題の解決はみんなが願っている。
・寶泉寺ご本尊、薬師如来様の御加護あらん
ことを切にお祈り申し上げます。(琴)

2011/12/23 (琴)